

急性骨髄性白血病を患い、混血で希少な免疫組織の型を持つため治療が難しい中で闘病を続けていたフィリピン人女性、ターラ・エンリレさん(三三)＝愛知県一宮市＝が二日午前、入院先の名古屋市内の病院で死亡した。臍帯血の移植後に病気が再発し、再治療を受けていたところだった。

十四年前に来日し、英会話講師などをしてきたエンリレさんは、二〇一二年に白血病と診断された。国内では適合する骨髄や臍帯血が見つからなかったが、米国の臍帯血バンクで偶然に適合型が見つかり、一三年十二月に移植手術を受けた。いったん退院したが、昨年十一月に再発し、今年一月に二度目の移植をした。

支援団体「ターラさんを支

白血病ママ 逝く

臍帯血移植を受ける直前のターラ・エンリレさん。「娘のために頑張る」と話していた＝2013年12月、名古屋市内で



援する会」によると、二度目は、血縁者からの末梢血幹細胞の移植が実現。手術自体は成功したものの、術後の治療の副作用で体力に限界が来たという。

エンリレさんは一度目の移植を受けて退院した時期、「完治したら東京マラソンに出場したい」と周囲に話していた。再発後も一人娘のカーラちゃん(五)を気に掛けなが

ら気丈に振る舞っていた。病院でみとった支援団体代表の岡本真紀さん(四三)は「最期まで『決して諦めない』と言っていた。生きることに向きだった」と早い死を悼んだ。

母子家庭のエンリレさんに対し、高額な治療費負担を支えようと、エンリレさんが通っていた一宮キリスト教会を中心にした支援団体が寄付を募り、本紙の報道などで市民から一千万円が集まっていた。

残った四百万円余りは、治療費の負担に困っている白血病患者に、支援基金などを通じて提供する。

(安福晋一郎)

一宮で移植支援の比女性、再発